

舵輪

空ぶっきの甲羅子

『初夏の屋久島クルーズ（ふじ丸）』
59 玉井 文次

「名古屋からの出港」
梅雨の最中であり、月に35日雨が降ると表現されるほどの多い屋久島クルーズに、一度は行ってみたいと思っていたので、船に乗れるだけで楽しいからと参加した。

名古屋出港が10時と早く、夜中の汽車で富山を発ち、8時30分の受付で船のクルーの出迎えを受けて乗船。荷物を部屋に置き、船の内外を見学、写真を撮ったりして出港を待った。予定時間にドラが鳴り、たくさんのテープが投げられ、見送りを受けて静かに岸壁を離れ、ベイブリッジをくぐり、伊勢湾を知多半島に沿って太平洋へと進んで行く。

この日はオリエンテーションで、これからの説明とスタップの紹介の後、いろいろなイベントや海を眺めながら過ごす。夕方、船長主催のウエルカム・カクテルパーティー、ディナー、マジックショーと夜遅くまでいろいろなことが行われた。

「屋久島観光ツアー」
二日目は、朝の体操から始まりブリッジ見学まで午前中を送る。

12時に屋久島宮ノ浦港に接岸した。当日は素晴らしい晴天になり、この天候ならば屋久島観光ツアーは最高だと思いましたが、バスで山へ入ると曇ってきて、時々雨も降り、雨具の用意が必要でした。

屋久島では、バスにて紀元杉を目指した。約1時間15分位で到着。途中の道は狭く、まだ工事中の箇所もあった。紀元杉は約三千年を経た屋久杉で、胸高周囲81メートルと太いもので、樹高は19.5メートルである。ここからバスは引き返し、ヤクスギランドの見学をした。ここは時間による見学コースが設けられており、30分コースを見学した。杉、樅、梅の木が多くあり、以前に伐採された大きな株も見ることが出来る。

更にバスを進めて、最後の観光は千尋の滝を見学した。ここは滝よりも山全体

が一枚岩で、その中が千尋あるということです。センビロの滝と名付けられたそうです。

案内バスで時間がかかり、直ちに引き返し帰船、ツアーを終了した。

「瀬戸内海航路」
三日目は帰路を瀬戸内海へ航海して名古屋まで、午前中はブリッジ見学、エンジェルム見学は人気があり、整理券が出され、時間を決めて案内されました。

昼食は、デッキランチを6階のスポートデッキで、全員がにぎやかに、いろいろなお馳走を満足いくまでいただきました。昼食が終わる頃、船は来島海峡にかかり、工事の来島大橋が見えてきた。以前の事故の話とか、まだ連結されていない箇所などの話題で、デッキ上はほとんどの乗客で賑わった。

海を眺めたり、ロープワーク教室に参加している、瀬戸大橋が遠くに見えてきた。瀬戸内海航路の一つの目玉であり、曇っていたが何回見ても見飽きない風景で、見えなくなるまで甲板で過ごした。

瀬戸内海は見るものが多く、夕食後、遠くにかすかに明石大橋のイルミネーションが見えてきた。だんだん近づいてきたが、感動的になつてくる。イルミネーションは近くで見ると虹色になつていく。通行車両も近づくと虹色になつていく。見えてくる。大阪湾前方からの風が強くなり、明石の街もどんどん離れていく。淡路島沿いに進むので神戸の夜景は見られなかった。

夜は最後の一夜、メインのトーク&コンサートを楽しみ、続いてシアターで映画を鑑賞した。

「名古屋港で下船」

最終日、8時に伊良湖岬を通過。知多半島に沿って名古屋空港予定地の近くを通過。11時にガーデン埠頭に着岸。クルーに送られて下船、航海を終了した。クルーズはやはり客船が一番楽しめます。食べることも毎日変化があり、ツアーも見ることが多く、航海は船をできるだけ揺らさないようにするため酔いやすいなどの心配はほとんどなく、今後も行き先を選んで参加したいと思っています。

K A I W O M A R U

舵輪

文壇の展示

平成6年度及び9年度の特別改修工事において、木製マスト及びヤードを鋼製に新替えしたことは皆様もご存じの通りですが、その際取り外したマスト及びヤードの一部を海王丸パークに展示し、ご来場の皆様が、間近に見て、触れることができるようになりました。

昭和5年の建造以来、長い間海の若者を育て、富山に来てからはボランテアの皆様とともに総帆展帆で優美な姿を披露してきましたが、やっとお役御免となり、本堂にご苦勞さまでしたという想いです。

今後は、展示物として、また公園のベンチとして第2の役目を果たし、海王丸とともに将来ずっと愛され、語り継がれていくことを心から望んでいます。

ギリシアの豆知識

「灯台」

ギリシア神話の一説です。女神アフロディテに仕える尼僧は、海峡を泳いでくる恋人リアンダのために、毎夜火を焚いて待っていた。ある嵐の夜、この火が消えてしまい、目標を失ったリアンダは、おぼれ死に、悲しんだ尼僧は、後を追って投身自殺してしまふ。古代ギリシア時代から陸上で火を焚き、それを海からの目印とする手段は今も何ら変わりはありません。紀元前7世紀、航海の安全のために、ナイル河口の寺院に火が灯されたのが、記録に残る最初の灯台とされています。

今日に至っては、灯台は沿岸に多数設置されていますので、どの灯台かを特定できるような光り方や、光の色に特徴を持たせています。このような特徴を業界用語では「灯質」と呼んでいます。例えば、能登半島先端の緑剛崎灯台は6秒の間に3秒間の光を発します。海図には各灯台の灯質が記載されていますので、航海者は容易に灯台を特定することができます。

また、港の入口を示す灯台の多くは、海から港に向かつて右が赤色、左が緑色の光となつています。夜間入港するとき、赤と緑の間を航行すれば港内に入れるようになっています。

灯台は夜間だけでなく、昼間も重要な物標として使われます。そのため岩などの障害物に設置された灯台は赤と黒の縞模様として、分かりやすくしています。霧で視界が悪いようなときには、サイレンなどの音が出る灯台もあります。現代では、レーダー、GPSなどの航海計器が発達し、自分の位置は、灯台を頼りにしなくても分かるようになりましたが、太平洋を渡ってきた、日本の灯台を自分の目で確認した時は、ほっとするものであり、航海術の基本でもあります。

財団からのお知らせ

高校生クイズの放映

皆様にご協力いただいた全国高等学校クイズ選手権北陸地区大会の模様を左記のとおり放送されます。

日時 9月4日(金) 16時から
放送局 KNB(北日本テレビ)

第4回ネプチューニアード

10月4日(日)総帆展帆日の昼休みにボランテアの皆様による恒例の運動会を行います。多数のご参加をお待ちしています。

主催 海洋教室の募集

今年度、左記の2回の海洋教室は、まだ余裕があります。お知り合いの方をお誘い合わせのうえ、どうぞご参加ください。

記

日帰りコース

9月20日(日)

宿泊コース

10月10日(祝)、11日(日)

写真コンテスト入賞作品の展示

9月20日(日)表彰式後から船内第一教室に展示いたします。ボランテアの方々も多数応募されていますが、皆様の作品が入賞することを願っています。

絵画コンクール作品の展示

10月4日(日)～11月3日(祝)の間、海王丸パーク内の緑のパーゴラ中央休憩室に全作品を展示します。皆様のお知り合いがいらっしゃるかもしれません。一度覗いてみてはいかがでしょうか。

餅つき大会について

今年度は12月23日(祝)に餅つき大会を行う予定です。例年の餅つき大会は前日に準備を行い、当日朝から餅つきや豚汁を作ってきましたが、今年は前日が平日であり、皆様の仕事等の都合もあって、1日で行ってみようと考えます。つきましては作業の分担等をあらかじめ決めておき、当日の作業をスムーズに進行したいと思っております。参加可能な方は心づもりをお願いいたします。もう少し日が近づいてから、総帆展帆日の昼休み等を利用して、ミーティングを行いたいと考えます。

「海星」によるセイルトレーニング

9月から12月まで7回の訓練航海が予定されています。詳しい内容についてはお知りになりたい方は市川までご連絡ください。

展覧会

月日 天候 参加者 その他

7/20 晴 85名 スターボードタック・シャープアツプヤード 紺青賞表

彰式(海王丸フェスティバル)

8/9 晴 66名 スターボードタック・2ポイントヤード 海洋講座(富山新港の荷役機械)

あとがき

今年、北陸地方の梅雨明けはついに発表されませんでした。これは日本だけの問題ではなく、世界的に異常気象となつてきているため、エルニーニョ現象の影響とも言われています。つまり赤道付近の海水温度が上がらないため、海水の蒸発が少なく、熱帯、温帯付近の対流が弱くなり、本来夏をもたらす太平洋高気圧の勢力がいつまでも弱いということ。このことは、台風の発生が少なくなることにも関係があります。しかし、暑くならないことは皆様にとつては良いことなのかもしれません。

梅雨が終わらないと、なんとなく夏が来たとは思えないですネ。もし夏が来るとすれば、次の季節は秋! 秋と言えば運動会です。毎年思うことですが、今年こそは自分のマストが優勝するよう、皆様とともに頑張っていきたいと思います。

前回の豊帆は、過去最低の47名という少人数でした。早々と綱引きの練習かというふうな冗談が不謹慎なほど、普段の2倍、3倍の労力が必要だったことでしよう。本堂にお疲れさまでした。これに懲りることなく、今後も皆様のご協力をよろしくお願い致します。

ITTY